

こちら特報部

「公的存在」自ら説明を

問われるファーストレディー像



トランプ米大統領との一連の外交日程を終え米国から帰国し、羽田空港に到着した安倍首相。右は昭恵夫人=2月13日

そもそも首相夫人とはどのような立場なのか。首相官邸に電話をかけると、「夫人付き」という部署に回された。しかし、「担当は内閣総務官室」とのこと。そこで同室に確認したが、内閣法に規定がないということしか教えない。官邸にかけ直すと、なぜか「夫人付き」には取り次いでくれなくなった。来日した他国の元首夫人との懇談などの対応について外務省に聞くと、「相手の意向に応じて担当課が直接、夫人と連絡を取りながら場所や時間を話める」と説明した。

政治評論家の有馬晴海氏によれば、昭恵さんは「第一次安倍政権時のブッシュ米大統領のローラ夫人を手

本にしている」という。十数人のスタッフを抱えているローラ夫人にならぬ、昭恵さんのために官邸内に専用の部屋が用意され、スタッフも数人いるらしい。

公人が私人か、なんとも曖昧な存在である。民進党の辻元清美衆議院議員は二十七日、昭恵さんの活動などについて衆院に質問主意書を提出した。

その内容は、まず首相夫人の活動を補佐する官僚の人数や出身官庁、公用車使用の有無。森友学園関連では、系列幼稚園での講演に官僚が随行したか、公用車を利用したかをただしている。さらには、首相夫人が「公的な存在か」「私的な活動に公費が支出されるこ

とがあるか」、今回のように法人の役職に就く場合に政府の許可が必要かなどについて尋ねている。

辻元氏は「昭恵夫人は多くの外国訪問に随行し、数多くの公式行事に出席している。もはや公人であり、その資質は問われるべきだ。昭恵夫人は数回、森友学園を訪問しているが、そこで国費が支出されているのなら問題だと強調する。

海外はどうか。米国でもファーストレディーは公務員ではないが、第三十二代フランクリン・ルーズベルト大統領のエレノア夫人が、身体に障害のある夫に代わって政策の一部を担うなど活躍して以来、国民から常に注目される存在だ。

現在、ファーストレディーは社会貢献活動をするのが一般的で、研究機関が歴代夫人の家柄、ホステスとしての役割、業績などで点数を付し、ランキングを公表している。

一方、日本の首相夫人は総じて地味である。民主党政権の鳩山由紀夫首相の幸夫人が、米国の週刊誌から「最もはじけたファーストレディー」一位に選出されたことがある程度だ。

森友学園問題を機に、日本のファーストレディー像は変わるのか。

前出の有馬氏は「私立の教育機関の名誉校長などを安易に引き受けたのは脇が甘すぎる。世間は、安倍首相を捕虜に取れなければ、ファーストレディーを捕虜に取ればいいと、虎視眈々と狙っている。そのことを今回の件からよく学ぶべきだ」と苦言を呈す。



伊勢志摩サミットの国際メディアセンターを訪れた昭恵夫人(右端)ら。昨年5月27日、三重県伊勢市で

「脇甘すぎる」「海外の目 意識必要」

悪女研究で知られる堀江珠喜・大阪府立大教授(比較文学)は、昭恵さんについて「首相夫人の座がとも居心地よさそうに見える。だから、少しでも長くその座にいたいだけではないか。そのために、アッキー」という愛称でかわいらしく見せ、誰にも嫌われないように振る舞う」と冷めた見方を示す。「森友学園にとっては、昭恵さんはあくまでも首相の妻。いわゆるファーストレディーの肩書があれば誰でも良かった。昭恵さんの方も本心から共鳴したというより、理事長が夫と思想的に近いから、今回は協力してやろうと思っただけではないか」

外交評論家の天木直人氏は「首相夫人は公的な色彩を帯びており、本人の思いとは別に、海外からどう映るかは常に意識されている。ならば常に意識されていないと唱えた上で、「昭恵夫人が戦前の軍国主義的な価値観を持つかのような森友学園の依頼で講演し、教育方針を褒めたのは行き過ぎだ。中国、韓国との関係を損ねかねず、ファーストレディーとしてあってはならない」と断じる。「今後のあるべき首相夫人像を考えるうえで、昭恵夫人を国会に呼んで、本人の口から事実関係を語らせるべきだ」

話題の発掘